

2019年7月1日

2050年を展望した温室効果ガス排出削減に係る長期ビジョンの骨子を策定

太平洋セメント株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：不死原正文 以下、当社）は、この度、2050年における80%削減を目指した温室効果ガス排出削減に係る長期ビジョンの骨子を策定いたしました。

COP21（国連気候変動枠組条約第21回締約国会議）で採択された国際枠組を背景に、我が国をはじめ世界各国ではより一層の温室効果ガス（以下、CO₂）排出削減に向けた議論が進められています。当社では、CO₂排出削減を重要な成長戦略と位置づけ、2017年に長期的な視点から戦略的に検討する社内横断的な組織を立ち上げ、CO₂排出削減に向けた取り組みを進めております。省エネルギー設備の導入やキルン運転の安定化・効率化によるエネルギー消費量削減、廃棄物やバイオマス由来のエネルギーの使用により化石エネルギーの使用を減らす等、CO₂の発生を抑制する対策を進めてきました。また、これらの取り組みに加え、大幅なCO₂排出削減に向けてセメントキルン排ガスからのCO₂回収技術の確立を目指して、2018年度から当社藤原工場で実証試験を開始し、本年度も鋭意取り組んでおります。本活動の一環として、この度、当社では2050年を展望したCO₂排出削減に係る長期ビジョンの骨子を策定いたしました。

当社長期ビジョンの枠組み

- (1) セメント生産におけるCO₂排出削減
(2050年における80%削減が長期的なゴール)
- (2) セメント製品によるCO₂削減貢献
(セメント生産におけるCO₂排出量の20%に相当する削減貢献が長期的なゴール)

本長期ビジョンでは、セメント生産におけるCO₂排出削減を主な柱としております。その長期的なゴールについては、2016年に閣議決定された地球温暖化対策計画での長期目標に符合したビジョンとして、2050年における80%の削減と位置付けることといたしました。また、もう一つの柱としてセメント製品による削減貢献についても枠組みに取り入れたものとしております。

長期ビジョンを達成するために、以下のような技術方策の概略について策定しています。

- ・ 化石エネルギー代替の使用拡大
- ・ CO₂排出量の少ない化石エネルギーの活用
- ・ 低CO₂型クリンカやセメントの開発、混合材比率増大
- ・ 排ガスからのCO₂回収と有効利用 および貯留 など

これらの方策については、現状の技術や社会環境の延長では達成が難しく、イノベーションが求められる項目も多く含まれます。また、規格・基準の整備や社会受容性、経済的負担の在り方など、技術面を超えた課題の解決も必要となります。これらの課題はありますが、当社の長期的な成長および社会の大幅な変革を見据え、本長期ビジョンを視野に置いた取り組みについて進めて参ります。また、カーボンリサイクル（CO₂の有効利用）をはじめとする技術方策の研究開発を強化するために、新たな専任組織を中央研究所内に設立します。

長期ビジョンに関するより具体的な内容については、現在、更なる策定を進めており、完了次第、公表する予定です。

また、長期ビジョンにおける「(2)セメント製品によるCO₂削減貢献」を算定するための「セメント及びセメント関連製品のバリューチェーンを通じた温室効果ガス削減貢献量算定・報告プロトコル」について、2017年度から検討を開始し、2018年度に策定しました。（添付資料）

セメントは、製造後には主にコンクリートとして構造物や建築物に用いられますが、この構造物や建築物として利用されている期間やその後の解体期間には、大気中のCO₂を吸収し、固定する特徴を持っています。

本プロトコルでは、このCO₂吸収量の算定方法を示しています。また、本プロトコルにより、2017年度に当社が生産したセメントのCO₂吸収による削減貢献量を算定し、その量は当社単体〔国内〕では約200万t、グループ〔国内+海外〕全体では約280万tとの算定結果も示しております。これらのCO₂吸収量は、セメント生産におけるCO₂排出量のそれぞれ17%および12%に相当する量となっています。今後、削減貢献量を更に高められるように検討してまいります。

当社は、今後とも経営理念である「持続可能な地球の未来を拓く先導役をめざし、経済の発展のみならず、環境への配慮、社会への貢献とも調和した事業活動」を行なってまいります。

<本件に関する問合せ先>

太平洋セメント株式会社 総務部 I R 広報グループ

TEL. 03-5531-7334 FAX. 03-5531-7551

【添付資料】

セメント関連製品による CO₂削減貢献量を算定するためのプロトコルの策定と、 当社が生産したセメントの CO₂吸収による削減貢献量について

長期ビジョンの枠組みにおける「セメント製品による CO₂削減貢献」の定量化や見える化を可能とするための「セメント及びセメント関連製品のバリューチェーンを通じた温室効果ガス削減貢献量算定・報告プロトコル」を策定いたしました。本プロトコルは、セメント製造における原料の調達から製造、またその後、コンクリートなどの製品として使用、廃棄されるまでの全ライフサイクルにおける CO₂削減貢献量の定量化に対応したものとして策定しています。

セメントは、製造後には主にコンクリートとして構造物や建築物に用いられますが、この構造物や建築物として利用されている期間やその後の解体期間には、大気中の CO₂を吸収し、固定する特徴を持っています。

本プロトコルは、この CO₂吸収量の算定方法を示しており、当社が生産したセメントのライフサイクルを通じた CO₂吸収による削減貢献量を算定できます。

その結果、2017年度に当社が生産したセメントの将来にわたっての CO₂吸収量は、当社単体〔国内〕では約 200 万 t、グループ〔国内+海外〕全体では約 280 万 t と見積もられ、その削減貢献量は小さくないものです。

なお、算定の対象とした当社のセメントの生産量は、当社単体〔国内〕では約 1,700 万 t、グループ〔国内+海外〕全体では約 3,300 万 t であり、CO₂吸収量はセメント生産における CO₂排出量のそれぞれ 17 %および 12 %に相当する量となっています。

本プロトコルの策定および当社セメントの CO₂吸収量の算定は、外部の専門家である環境経営コンサルタント会社との意見交換を通じて行い、さらに、外部審査機関であるロイド レジスター クオリティ アシュアランス リミテッド社による第三者レビューを経て最終版としたものです。本プロトコルは、近日中に当社ホームページ上にて公開する予定です。

本プロトコルを通じ、長期ビジョンにおける「セメント製品による CO₂削減貢献」にも寄与する製品の提供や開発を目指していきます。